

## 様式 C-19

# 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 14 日現在

機関番号：12703

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22730159

研究課題名（和文） 国民皆保険制度が富の再配分に与える影響：動学的ライフサイクルモデルによる分析

研究課題名（英文） The Distributional Effect of Universal Health Insurance Provision: A Dynamic equilibrium Life-Cycle Analysis

研究代表者

シュウ ミンチュン (Hsu Minchung)

政策研究大学院大学・政策研究科・助教授

研究者番号：20467062

研究成果の概要（和文）：本プロジェクトでは、公的な国民皆保険制度（UHI）の影響についての調査を行った。再配分の効果は、富（wealth）ではなく福祉（welfare）において認められる。すなわち、若者よりは高齢者が、また富裕層よりは貧困層が多くを得るという構図である。我々は、国庫支出割合の上昇に伴って福祉の享受状況が逆U字型のパターンを描くこと、また税の歪みを考慮に入れた場合、大部分の OECD（経済協力開発機構）諸国の国庫支出割合（平均約 70%）が高すぎる可能性があることを突き止めた。

研究成果の概要（英文）：This project investigates impacts of public provision of universal health insurance(UHI). A redistribution effect on welfare, rather than on wealth, is found—the old gain more than the young, and the low-wealth gain more than the high-wealth. We find an inverse U-shaped welfare pattern with increased UHI expenditure coverage rates an that the rates in most OECD countries might be too high (the average is about 70%) when the tax distortion is taken into account.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011 年度	700,000	210,000	910,000
2012 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・理論経済学

キーワード：富の分配、国民皆保険

### 1. 研究開始当初の背景

OECD 諸国の多くは、国民皆保険制度（UHI）を提供している。韓国、台湾、シンガポールなど一部の中所得国も、最近になって国民全体を対象としたヘルスケア制度を完成させ、中国、メキシコ、トルコなど、その他多くの中所得国も同様の方向に進みつつある。実際、世界保健機構（WHO）は各国に対し、ヘルスケア制度の改善と均等化の一手段として国民皆保険の導入を目指すよう推奨

している（「2008 年版世界保健報告」）。UHI は、民間の保険市場に存在する「逆選択」の問題の回避など、様々な理由から導入が期待されている。UHI はプール方式の健康保険契約であることから、慢性的な疾患を持つ者も加入できる。さらに、UHI によって予備的貯蓄の必要性が減少するとともに、適性審査や監視の必要性も少ないことから、保険に掛かる行政コストを下げる可能性もある。

## 2. 研究の目的

既存の論文は、経済の総合的な枠組みにおけるUHI提供の影響について、極めて限られた分析しか行っていない。本論文はこの問題に光を当てることを目標とした。本論文では、UHIの中でも全国民を対象とする政府出資の義務的な健康保険プログラムという特定の方式に焦点を当てた。これは多くのOECD諸国、また最近になって国民皆保険を達成した中所得国で採用されている方式である。このUHIは、国民皆保険を目指す諸国で広く検討されているタイプのものである。

民間保険市場においては逆選択の問題が存在することから、通常、UHIの提供においては政府が重要な役割を果たす。UHIが提供されているOECD諸国では一般的に、政府によるヘルスケア支出額が民間のヘルスケア支出額を大きく上回っていると見られる。UHIの提供によって逆選択の問題が回避され、ヘルスケアの社会的公正の改善が期待できる。また、UHIを導入すれば、健康保険の加入機会が均等となるうえ、個人と経済に多くの面で影響を与える。第一に、通常は国民皆保険によって、リスクシェアリングが改善するなど不安定性が低下し、それによって予備的貯蓄の必要性が軽減される。さらに義務的な公的UHIによって民間健康保険（PHI）とその保有資産へのクラウドディングアウト効果が生まれ、結果として家計のポートフォリオ選択、富の配分、資本ストックの総量に変化が生じることになる。またUHIの財源を確保するため、政府は歳入を増加させる必要がある。UHIの財源としては、給与税（所得に比例する保険料を含む）が広く採用されている。同じ保険プランに対しては所得の高い個人がより多く支払うことから、これはより「公正」であるように見えるが、労働・余暇時間の決定にひずみが生じる。リスク削減と税の歪みとの間には、明らかにトレードオフの関係が存在するのである。今後は給与税による財源確保から生じるひずみを正すため、歪みのない資金調達の方法が試されることになる。

本論文では特に、税負担とひずみの増大、リスク削減、PHIおよびその資産保有との相互作用による影響に焦点を当てた。これらの影響によって、貯蓄、労働時間、保険・資産間のポートフォリオ選択における個人の決定が変化し、ひいては労働総供給、資本ストック、富の配分、福祉にも変化が生じることになる。こうした相互作用と影響の複雑性から見て、個人のレベルのみならず総体的なレベルにおいても、福祉の変化を予測することは、決して無意味ではない。

## 3. 研究の方法

公的なUHI提供による影響への理解を深めるため、我々は家計の不均一性、金融市場の不完全性、PHIに対する内生需要を用いた動学的確率論的均衡モデルを考案した。PHIだけでなく家計も、予備的動機から、所得や医療費における緊急事態に対する自家保険として資産を蓄積することが可能である。税を財源とする義務的なUHIプログラムが導入され、各家計の緊急の医療支出が部分的にカバーされれば、現在、緊急医療費の他の部分を追加的にカバーしているPHIは、UHIを補完する位置づけとなる。そのためPHIの価格はUHIの導入に伴って下落し、より加入しやすくなる。一方、UHIの整備によって医療費リスクは低減し、予備的貯蓄の必要性が低下するだけでなく、PHIへの需要も減少する。つまりUHIの導入後、PHIの加入率がどのように変化するかは、どちらの制度の影響力が強いかによって変わってくる。

## 4. 研究成果

我々は、UHI提供の影響について、定量的な調査を行った。UHIを持たない経済をベンチマークとし、UHIを擁する経済との間で比較を行ったところ、各種資産とPHIによる（資産）購入の両面において、UHI提供による明らかなクラウドディングアウト効果が存在することを見出した。また富ではなく福祉の面で、再分配効果が見られた。すなわち、若者よりは高齢者が、また高所得者よりは低所得者が多くを得るという構図である。

UHIの財源の面では、（歪みのない）定額税との比較において、給与税による財源確保では歪みが生じ、結果として労働供給が減少し、さらにはPHIによる資産購入・保有にクラウドディングアウト効果が生じることも明らかとなった。給与税の歪みから来る損失は、財源を給与税に求めるUHIと、定額税に求めるUHIとの間で福祉の格差を生み出す。国庫支出割合の高いUHI政策によってリスクシェアリングは改善されるが、財源を確保するには税率の引き上げも必要となる。従って、リスクシェアリングと税の歪みとの間にはトレードオフの関係が存在する。この結果は、国庫支出割合の上昇に伴って、福祉の享受状況が逆U字型のパターンを描くことを示している。我々は、UHIの国庫支出割合が50%を超えると、様々なシナリオ下において、歪みによる追加的な損失が追加的な福祉利益を上回ることを発見した。これはすなわち、税の歪みを考慮に入れた場合、大部分のOECD諸国の支出割合（平均約70%）が高すぎる可能性があることを示唆している。

さらに UHI が導入された際の PHI に対する需要も検討を行い、以下の点を発見した。

- ① UHI が本人保障を提供し、PHI がそれを補完するもの（自己医療負担費の割合を補うもの）として位置づけられるようになると、高所得者は彼らの資産を補完的 PHI の代わりに容易に使用できるようになるので、価格変動に対してより敏感になることがわかった。一方で低所得者はこの選択肢を持たないので、価格変動には鈍感である。
- ② 高額医療費を必要とする緊急事態において、全補償を提供する高額医療 PHI を設計したところ、UHI によって補償されない項目をカバーすることができる補足的 PHI プランは、高所得者にとってより魅力的である、ということが導きだされた。
- ③ UHI が導入され、新たなタイプの PHI が提供されない場合、PHI の利幅が同じレベルで維持されるのであれば、保険会社は顧客を失うことになる。特に高所得者は PHI に代わる選択肢をさらに容易に持つことができる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文]

(計 4 件)

1. Minchung Hsu. “Health Insurance and Precautionary Saving – A Structural Analysis”. *Review of Economic Dynamics*. 2013, 16:3, 511-526 (accepted in 2012)
2. Minchung Hsu and Junsang Lee. “The Provision of Public Universal Health Insurance: Impacts on Private Insurance, Asset Holdings and Welfare”. *Macroeconomic Dynamics*. Forthcoming (accepted in 2012)  
DOI:<http://dx.doi.org/10.1017/S1365100512000065>
3. Minchung Hsu and Min Zhao. “China’s Economic Fluctuations and Consumption Smoothing: Is Consumption More Volatile than Output in China?” *China Economic Review*, 2012, 23:4, 918-927
4. Minchung Hsu. “Social Insurance and the Wealth Distribution”. *Economics Bulletin*, 2011, 31:1,

687-698

[学会発表] (計 11 件)

1. Minchung Hsu “Financing Health Care in Japan” OEIO conference, March 28 2013, University of Tokyo
2. Minchung Hsu “Financing Health Care in Japan” 2012 CIGS Conference on Macroeconomic Theory and Policy, May 29, 2012, Tokyo
3. Minchung Hsu “Financing Health Care in Japan” 20th Colloquium of Superannuation Researchers, July 12, 2012, UNSW, Australia
4. Minchung Hsu “Health Insurance Reform – The Impact of a Medicare Buy-in” *Econometric Society Australasian Meeting 2012*, July 5 2012, Melbourne, Australia
5. Minchung Hsu “Health Insurance Reform – The Impact of a Medicare Buy-in”, *Health and Mortality Conference of LAEF (UCSB)*, March, 2012, Santa Barbara, USA
6. Minchung Hsu “Financing National Health Insurance: Challenge of Fast Population Aging” *ASSA 2012 Annual Meeting (CEANA session)*, January, 2012, Chicago, USA
7. Minchung Hsu “Financing Health Care in Japan: A Fast Aging Population and the Dilemma of Reforms”, University of Macau, Macau, China, November, 2011
8. Minchung Hsu “Financing Health Care in Japan: A Fast Aging Population and the Dilemma of Reforms”, Seminar at Bank of Japan, November, 2011, Tokyo
9. Minchung Hsu “Health Insurance Reform – The Impact of a Medicare Buy-in”, *Society for Economic Dynamics 2011 Annual Meeting*, July, 2011, Ghent, Belgium
10. Minchung Hsu “Financing National Health Insurance and Challenge of Fast Population Aging”, *Royal Economic*

Society 2011 Conference, April,  
2011 ,London, England

11. Minchung Hsu “Revisiting Private Health Insurance and Precautionary Saving: a Structural Analysis and Empirical Evidence” , ASSA 2011 Annual Meeting (CEANA session), January, 2011, Denver, USA

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

シュウ ミンチュン (Hsu Minchung)

政策研究大学院大学・政策研究科・助教授

研究者番号：20467062